

『グラフ理論』正誤表

2025 年 8 月 22 日

初刷（令和 4 年 11 月 25 日発行）の正誤表【第 2 刷ではすべて訂正済み】

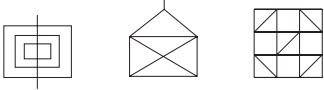
場所	誤	正
p.221, 演習問題 9.4.9a) の 1 行目	$H \vee \overline{K_n}$	$H \vee \overline{K_n}$
p.221, 演習問題 9.4.9a) の 2 行目	$\overline{K_n}$	$\overline{K_n}$
p.307, 定理 12.12	任意の正の整数 k に対して,	任意の整数 $k \geq 2$ に対して,
p.307, 定理 12.12 の証明 1 行目	$r(1, 1) = 1$ と	左記の文言は削除
p.458, 演習問題 17.2.13 b)	辺彩色を見つける	辺着色を見つける
p.487, 演習問題 18.3.8	$K_k \vee (K_{n-2k} + K_k)$	$K_k \vee (K_{n-2k} + \overline{K_k})$

2 刷（令和 5 年 5 月 20 日発行）の正誤表【第 3 刷ではすべて訂正済み】

場所	誤	正
p.11, 下から 2 行目	同等	同一
p.12, 上から 1 行目と 3 行目	同等	同一
p.13, 下から 9 行目	同等	同一
p.25, 演習問題 1.3.15 a) の 2 行目	すべての頂点	そのすべての頂点
p.132, 図 6.2 のキャプション	深さ関数 f	深さ関数 ℓ
p.138, 演習問題 6.1.1	$l(v) = d_T(r, v)$	$\ell(v) = d_T(r, v)$
p.255, 演習問題 10.3.9(a)	$3n - 5$	$3n - 6$
p.361, 演習問題 14.1.8		3 刷以降原著者の意向により, 演習問題 14.1.8 を演習問題 14.1.23 の前に移動させ, 発展問題とした. 移動に際して, 次の演習問題の番号が変更となる. (旧) 14.1.8 $\rightarrow$ (新) 14.1.22 (旧) 14.1.9~14.1.22 $\rightarrow$ (新) 14.1.8~14.1.21
p.382, 系 14.25	G が奇数個の出次数列 d を持つ向き付け D を持つならば	G が出次数列 d を持つ向き付け D を奇数個持つならば
p.469, 図 18.1(a) のキャプション, 本文上から 4 行目, 本文下から 2 行目 (計 3 箇所)	正二十面体	正十二面体
p.613, 下から 5 行目	G/S	$G \setminus S$

場所	誤	正
p.614, 上から 20 行目 $\bar{D}$	単純有向グラフの捕グラフ	単純有向グラフの補グラフ
p.614, 上から 21 行目 $\bar{G}$	単純グラフの捕グラフ	単純グラフの補グラフ
p.614, 上から 22 行目 $\bar{T}$	全域木の捕木	全域木の補木
p.616, 下から 15 行目 C_e	捕木の辺に関する基本閉路	補木の辺に関する基本閉路

3 刷（令和 6 年 3 月 20 日発行）の正誤表【第 4 刷ではすべて訂正済み】

場所	誤	正
p.10, 演習問題 1.1.17 と 1.1.18 の間		難易度を分ける分割線を挿入
p.18, 演習問題 1.2.14 と 1.2.15 の間		難易度を分ける分割線を挿入
p.50, 演習問題 2.2.21(c) の 1 行目	見つる	見つける
p.54, 上から 4 行目	$K_{2,2}$ と K_2 のコピー	$K_{2,2}$ と 2 個の K_2 のコピー
p.69, 演習問題 2.7.10 の 3 行目	$\mathcal{F}(H) := \{123, 135, 234, 235\}$	$\mathcal{F}(H) := \{123, 135, 145, 234, 235\}$
p.84, 図 3.6	正のものに差替え	
p.87, 演習問題 3.4.9 の 5 行目	位数 $2n$	位数 2^n
p.103, 演習問題 4.2.9 の 1 行目	分岐	分枝
p.108, 演習問題 4.3.2(b)	$(T_1 \setminus \{f\}) \cup \{e\}$	$(T_2 \setminus \{f\}) \cup \{e\}$
p.118, 演習問題 5.2.6 の 2 行目	辺切断	切断辺
p.119, 下から 7 行目	G における耳	G における G_i の耳

4 刷（令和 6 年 8 月 25 日発行）の正誤表【第 5 刷ではすべて訂正済み】

場所	誤	正
p.227, 定理 9.18 の証明	$c'(v_{k-1}v_k)$	$c'(v_{k-1}, v_k)$
p.231, 定理 9.20*	$V_j \cap (\cup_{i=1}^{j-1} V_i) \neq \emptyset$ かつ $V_j \setminus (\cup_{i=1}^{j-1} V_i) \neq \emptyset$ となる.	$V_j \cap (\cup_{i=1}^{j-1} V_i)$ が $\cup_{i=1}^{j-1} G[V_i]$ のクリークとなる.
p.301, 演習問題 12.2.5	G の次数列の各項が H の次数列の対応する項より大きいことである.	G の次数列の各項の値が H の次数列の対応する項の値以上となることである.
p.301, 演習問題 12.2.5(a)	G がある完全 $(k-1)$ -部グラフより優次数であることを示せ.	ある完全 $(k-1)$ -部グラフは G より優次数であることを示せ.
p.462, 予想 17.7 の直上にある「弱い予想」について注の追加		訳者注: 2011 年, Fulkerson の予想と Berge の予想は同値であることが示された. G. Mazzuocolo, The equivalence of two conjectures of Berge and Fulkerson, J. Graph Theory 68 (2011) 125–128.

場所	誤	正
p.508, 定理 19.5 の証明中の「 $\mathbf{Q}$ から行基本変形によって得られたので」についての行基本変形の注の追加		訳者注：行基本変形は完全ユニモジュラ性を保存するとは限らない。 $\mathbf{Q}$ の正方部分行列 $\mathbf{B}$ に対して、 $\mathbf{B}$ における $\mathbf{M}$ の各行から（もしあれば） $\mathbf{B}$ における $\mathbf{N}$ の対応する行を引いた行列を考えることで、 $\mathbf{B}$ の行列式が 1, -1 または 0 となることが示せる。
p.511, 演習問題 19.2.2	定理 19.10	定理 19.5

*この誤りは杜山海久斗さんにご指摘いただきました。